

平成31年度 学校自己評価システムシート（県立所沢北高等学校）

目指す学校像	叡智育成・自主自律の理念のもと、学習・部活動・学校行事を奨励する中で豊かな資質を伸ばし、高い志を掲げて社会に貢献できる人間を育成する学校
重点目標	1 高い志と学力を育み、進路希望を実現させる。 2 「文武両道」を日々実践し、充実した学校生活を実現させる。 3 情報発信を積極的に行い、開かれた学校づくりを推進する。

A	ほぼ達成（8割以上）
B	概ね達成（6割以上）
C	変化の兆し（4割以上）
D	不十分（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	11名
	生徒	9名
	事務局（教職員）	22名

学校自己評価					学校関係者評価				
年度目標					年度評価（2月1日現在）				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日（令和2年2月12日）	
1	・学力向上を目指し授業単位数の確保と部活動等との両立のため65分授業、週34単位授業を実施している。入学時より確かな学力を身につけさせる系統的な指導を行い、第一志望実現を目指している。教育課程の検討、生徒の自律心を育てる取組を実施している。引き続き、授業力向上の取り組み、授業時間の確保、生徒の学習習慣の確立、結果分析の共有・活用方法の構築が課題である。	○学習指導の充実と学習習慣の確立 ○主体的、自立的な進路選択力の育成	①生徒の高い学力を育むためと教員の授業力向上のために外部研修への参加を積極的に行い、研修情報を職員間で共有化する。 ②新しい共通テストに対応できる教育課程を検討する。 ③65分34単位授業の効果を生かす時間割の作成・運用（年間授業時間数の均等化）を行う。 ④進路行事、LHRを通して将来を考えさせる中で体系的な進路指導を行う。学年や時期に応じた的確な進路情報を精選して提供することや体系的な進路学習や実力テストを実施する。 ⑤全学年で実施している定期考査、実力テスト、模試等において生徒が計画・準備、テスト後の解き直しが出来るように習慣づける。 ⑥高大接続改革について、情報を収集し職員間で情報の共有を図る。ポートフォリオの活用の仕方の検討を行う。	①外部研修会の参加割合が50%以上になったか。 ②共通テストに関する職員研修会が開催できたか。 ③学期ごとに同一単位数の時間数が1時間以内になったか。 ④-1 進路行事の内容充実が図られたか。 ④-2 的確な結果分析が行い、活用が図れたか。 ⑤学習計画表、解き直しノート等の活用が定着できたか。 ⑥研修会への参加率。ポートフォリオの活用および内容の整理ができたか。	進路希望を実現させるために必要な授業時間の確保を実現した。また、大学入試改革などの動きに対応するための情報収集や準備などを進められた。 ①外部研修会参加者数は引き続き高い水準だった。内部研修も実施した（2回）。新しい授業法への取り組みも積極的に行い、彩の国教育週間、未来を拓く「学び」推進事業の公開授業を実施した。 ②大学入試共通テストに対応できる教育課程を検討し編成した。授業満足度は高く、前年以上の生徒アンケートの評価があった。 ③定期考査、実力テストを見据えた、計画・準備ができるようになりつつある。学ぶことの目的意識を高め、授業レベルを保障したシラバスの編纂をおこなった。学期ごとのクラス別科目時間数の差を1時間以内に抑え、年間授業展開数の均等化を実現し、平常授業をできるだけ確保した。 ④進路行事、進路LHRは計画通り実施できた。多様な課題に対応できる、新たなキャリア教育に取り組んだ。 ⑤実力テストや模試の過年度比較を行い、三者面談時の志望校検討に活用した（2年・3年）。実力テストに向け志望校を掲げ、目標、計画を具体的に立て、準備して受験するようにした。解き直し時間を試験直後に確保した。 ⑥外部講師を呼んで高大接続改革に関する校内研修会を行い、職員間での情報の共有を行った。ポートフォリオの活用に向けて準備を行った（1・2年）。	A A	・アクティブラーニングなどの授業研究を進め、教員全体の授業力の向上を図る。 ・学習指導要領改訂に伴う学習評価の在り方について検討を行う。 ・将来に対する目的意識を早期にもたせ、自ら計画的に、学習に取り組めるようにさせる。 ・年間の授業時間の確保に努める。理数科2年生の課題研究の時間確保に努める。 ・キャリア教育の改善にさらに努める。大学入試改革に向けた情報を収集し、進路行事にフィードバックさせる。 ・解き直しの意識を高め、その後の学習の計画に活用させる。	・個人的な授業を進めている教員が増えており、高いレベルの授業につながっている。 ・所北の良さは授業を大切にしているところで常に授業改善を図っている。 ・外部研修等の参加はより新しい情報を収集するためにも重要である。 ・生徒が主体的に進路選択をするための体験や情報提供が充実している。 ・母校で学んだものを大事に進路選択をして活躍している先輩も多い。 ・多くの卒業生から進路選択に係る具体的な話を聞く機会があるとよい。 ・大学卒業後も見据えたキャリア教育の更なる充実を望む。 ・生徒が自分の実力を信じてチャレンジしていけるような指導を望む。 ・ポートフォリオの活用により有意義な進路選択へとつながることを望む。	学校関係者からの意見・要望・評価等
2	・全職員の共通理解のもと、統一的な生徒指導体制が確立されてきている。多くの生徒が基本的ルールを守り良質な生活状態で、学習、部活動、行事活動にそれぞれ意欲的に取り組んでいる。その一方で、生徒の自己管理意識の育成を図ること、さらに主体的・自主的に行動する能力の育成が課題といえる。	○基本的生活習慣の確立 ○生徒会活動・部活動の充実	①校則の遵守、規範意識の向上を基本に、ルールやマナーの大切さを生徒指導年間行事（登校指導、遅刻防止指導、下校指導、服装頭髪指導、着崩し防止指導、薬物乱用防止・SNSトラブル防止講演会、自転車指導等）を通じて指導する。 ②年度当初の職員会議で本校の生徒指導方針の確認をし、全職員の共通理解を重視し連携に努める。生徒に対しては必要に応じて個別指導や学年集会等を行い、生活面等における指導にあたる。 ③生徒一人一人が生徒会活動全体において、所北生としての自覚と責任をもって自ら考え、主体的に行動でき、学年を越えた交流を通じて行事等がより盛んになるように指導する。また、部活動が一層活発な活動となるための支援を継続していく。	①指導計画が全て実施できたか。 ②指導の効果が表れ、課題の改善がみられたか。 ③生徒会活動全体の中で、主体的な意見の交換や活動が見られたか。部活動の加入率や学校行事への満足度が高い水準を維持できたか。	学校全体で統一した生徒指導を行った。生徒会活動や部活動も生徒会本部を中心に自覚と責任をもって実施した。 ①全教職員が本校の生徒指導に対する共通理解をし、それに基づく指導の継続をした。それにより、大多数の生徒が基本的生活習慣の習得に成功している。 ②計画的に生徒指導が実施され、全教職員も協力体制ができています。各種講演会では外部講師の導入等により充実した指導が実施できた。また、学年や他分掌、外部機関との連携協力を図り、生徒指導上の問題を抱えた生徒に対して臨機応変な姿勢で指導することができた。登校指導の強化により苦情が激減した。 ③実施委員会の運営は生徒会本部を中心にほぼ実施できているが、さらに自立的な委員会を目指したい。体育祭や文化祭の企画アンケートを実施し、生徒の意見を把握し、来年度へ生かす改善策を考えたい。部活動が全国大会や関東大会に出場した際には壮行会を実施し、その活躍を支援した。	A A	・計画的な生徒指導により、さらに生徒の基本的生活習慣の遵守継続を図る。 ・ネットトラブル等多様な生徒指導上の問題について研修を積むとともに他分掌との連携を強める。生徒指導の行事を見直し、さらに全教職員の共通理解のもとに、引き続き生徒一人ひとりにとって安全安心な学校づくりを目指す。 ・生徒の企画アンケートや具体的な改善策を掲げ、取り組む行動力を養いたい。各部活動に対する支援のあり方を今後も継続して検討する。	・望ましい生活習慣確立に向けた指導を継続している。 ・文武両道を誇りとして生徒の意識が高く、自覚と責任をもって学校生活を送っている。 ・生徒指導が計画的に実施され全教員での協力体制ができています。 ・スマートフォンの使い方やネットトラブルに関する研修の更なる充実を望む。 ・「所北を考える会」は自治的建設的協議の場となっており有効である。また、学校が地域社会に支えられていたり、必要とされたりしていることも実感できる良い取組である。	
3	・「所北を考える会」（学校評価懇話会）を中心に、年に2回、教職員・生徒・保護者・学校評議員で課題を共有し、話し合うなど開かれた学校づくりを進めている。今後は課題の分析や改善のための方策、進捗状況などについてもわかりやすく、地域・保護者にフィードバックすることがさらなる課題である。	○信頼に応える学校づくり ○情報の発信	①「所北を考える会」（学校評価懇話会）で、生徒代表が発言しやすい環境を醸成するべく、運営方法の改善を図る。 ②課題に対する改善に向けた方策等についてのフィードバック方法を工夫する。 ③開かれた学校づくりの一環として授業公開を行い、地域住民や保護者へ、回覧板、HP、連絡メール等で周知・広報する。 ④HPや進路・学年通信、PTA広報誌等を通じて、部活動の活動状況を含め、学校の最新情報の発信を学校全体で充実させる。	①「所北を考える会」の運営を工夫できたか。 ②改善に向けた検討や報告ができたか。 ③授業公開の参加者が増加したか。 ④-IHPや通信等で定期的な更新や配信ができたか。 ④-2 保護者への情報発信が浸透し、学校行事への参加数が増加したか。	情報の発信により、地域や保護者からの信頼に応える学校づくりを実現した。 ①生徒、PTA理事、学校評議員が小グループで一緒に話し合うという運営方法で活発な議論ができた。学校評価に関するアンケートも回答しやすいものに見直し、PTA理事の参加率も向上した。 ②課題や改善策については、PTA理事会での告知、生徒会通信、HP等様々な手段を通じてフィードバックを行えた。 ③あらゆる機会を通じて授業公開の広報告知に努め、県の事業ともリンクさせるなどして、従前を上回る授業参観者数を得た。 ④理数科通信等の定期的発行と、中学校等への配布、日々のHP更新等による定期的かつ日常的な情報発信活動に努め、学校説明会への参加者の増加につながった。事前周知と伝達手段の工夫により、保護者の行事参加も確実に増えてきている。	A A	・地域連携では、部活動を生かした交流、福祉施設、国際交流等に関する幅広い貢献が展開できてきている。地域の小学校の学習支援のニーズの高まりに応え、ボランティアで参画する生徒が出たり、生徒の活動の幅が広がってきている。今後更にこの流れを推し進めていく。 ・今年度はHPの更新を強化した。今後は項目の見直し等、更なる充実に向け、工夫改善を図り、速やかな情報発信と地域・保護者の学校への理解と行事参加を推進したい。	・学校全体で地域からの信頼を得るための努力をしている。 ・ボランティア活動に積極的参加しており、地域に愛される学校づくりが進められている。 ・地域でのボランティア活動は小中学生に強いインパクトを与えており、子供たちに元気を与えている。 ・HPの更新もこまめに行われており、情報発信にも熱心に取り組んでいる。 ・HPは保護者にとって重要なものとなっている。 ・自治会・町内会への更なる発信をお願いする。	

